今年度のボランティア参加記録と次年度の活動提案

桑原　伽奈

Ⅰ　味鋺わいわい子ども食堂フードパントリー

2021 年 7 月 18 日

味鋺駅で藤本さんと待ち合わせをし、関係者の方に会場まで車で送迎していただいた。到着してすぐ、藤本さんの紹介で、わいわい子ども食堂プロジェクトの運営委員長である杉崎さんとお話しさせていただくことができた。終始笑顔で、とても気さくな方という印象を受けた。初めての参加ということもあり、しばらくの間は何をすればよいのかわからず、ただ立ち尽くしてしまっていた。学生のボランティア参加者は、私と藤本さんの他に三名ほどいた。その中に同じゼミの同期である東園君がいたため、とても心強かった。

会場には、9 時 40 分頃に到着した。会場の外では、フードパントリー開始時刻の 1 時間 20 分前にもかかわらず大勢の方が待機していたため、とても驚いた。この日は気温 33 度の真夏日だったということもあり、私が会場に到着したときにはすでにテントがいくつか用意されていた。東園君やその他の関係者の方の話では、先週 11 日に上飯田で行われたフードパントリーの最中に、熱中症になってしまった方がいたということだった。この日は、その反省を生かし、熱中症対策の強化が図られた日だった。

日陰になっている比較的涼しい場所に長机が円状に並べられ、その上に配給物資が置かれていた。タイミングを逃し、その様子を撮影することはできなかった。物資については、ペットボトルの飲み物、米、レトルトカレー（保存食品）、お菓子、パン、チラシなどが用意されていた。これらを手作業で詰めていく作業を、私を含め 7、8 人で行った。感染症対策のため、ビニール手袋を装着しての作業であった。150 袋用意するのにかかった時間は、10 ～ 20 分ほどであった。ビニール袋を広げて渡す人、とにかく物資を詰めていく人、チラシと飴二袋を重ねて取りやすいように置いていく人、出来上がった袋を台車に乗せて配給場所まで運ぶ人、といったように役割を分担することで、比較的スムーズに作業が進められた。作業を終え、手袋を外した時の手汗の量が尋常ではなかった。作業に集中しすぎて忘れていたが、それほどまでに暑い中での作業だったということである。

順調に準備が進められたため、10 時 40 分頃にフードパントリーが開始された。11 時前ではあったが、150 枚分の引換券はすぐになくなった。順番に、テントの中ないしは日陰のスペースに案内した。扇風機を一台使用していたものの、人の熱気でとても蒸し暑かった。扇風機の台数を増やすか、人と人との間隔が十分にあけられるほどのスペースを他に確保するか、何か対策を講じる必要があると感じた。

下の写真は、その時の様子を撮影したものである。人が密集していること、最後列がぎりぎり日陰に収まっていることが、それぞれの写真からわかる。

スタッフの方が、「飲み物を持ってきている方は各自で水分補給をしてください」と時折呼びかけていたが、そもそも飲み物を持ってきている方がほとんどいなかった。配布するチラシに、飲み物を持ってくるよう注意書きをするといいのではないかと思った。

11 時前には、引換券を持ったすべての方への配給が完了した。本来の開始時刻は 11 時であるため、せっかく時間を守って来たのに受け取れない、という方もいた。フードパントリーという活動は、必要としているすべての人に等しく物資を供給するための活動であるし、そ

うでなければならない。この日、東園君から、前の方に並んでいる人はだいたいいつも来ている人たちだと聞かされた。これを受け、フードパントリーという活動には、いつも来ている人たちに物資が供給されやすい仕組みができてしまっている、という課題があることがわかった。この課題を解決するためには、継続的な参加により、まずは参加者の傾向や仕組みについて詳しく知る必要があると感じた。

Ⅱ　障害者支援

1. 参加団体について

名称：アスペ・エルデの会
代表者　理事長：辻井正次
所属：岐阜支部（おにっプス）

2. 参加の経緯

昨年（2020）の秋学期に開講されたコミュニティ心理学の講義中、辻井先生がボランティアスタッフを募集した際、活動内容に興味を持ったことがきっかけ。

地元である岐阜にも支部があると聞き、参加のしやすさから応募に至った。

昨年 11 月初旬、岐阜支部の担当者の方にメールで参加の旨を伝え、同年 12 月中旬に採用された。21 期生として活動を開始する。

3. 主な活動内容

・学習会……月に 1 度開催される。クイズや簡単にできる遊びを行う。ボランティアスタッフが内容を考え、進行する。本来であれば対面での活動だが、近年はコロナの影響によりオンラインで行われている。

・日間賀島合宿……毎年 8 月に行われる。すべての支部が集まり、日間賀島に 4 日間滞在する。今年はコロナの影響で、“スタッフが 1 泊 2 日の宿泊をする際は自己負担で”という条件が付け加えられた。

・弁護士セミナー…年に 1 度開催される。弁護士の方をお呼びし、法律に関わる話をしていただく。毎年異なる内容なのかはわからないが、今年は個人情報保護法について説明していただいた。

・お出かけ例会……毎年 10 月に開催される。支部ごとに異なる場所へ行き、ZOOM で中継を行う。その場所や状況についての説明をしたり、クイズを行ったりして親睦を深める。

・初詣……毎年 1 月に、アスペ・エルデの会会員の社会人の方々と一緒に、初詣に行く。岐阜、名古屋、豊橋に分かれ、お出かけ例会同様 ZOOM でそれぞれの場所から中継を行う。

・スタッフ研修会…発達支援に関する基本的な内容やオンラインでの支援の仕方をレクチャーしてもらったり、1 年間の活動内容（方向性）についての共通認識を図ったりする。

4. これまでの活動

2021 年 5 月 30 日（日）、開校式に参加。各支部の紹介を受け、スタッフ、会員を含めたメンバーの把握や、活動内容についての認識に努めた。

2021 年 7 月 4 日（日）、弁護士セミナーに参加。個人情報保護法についての理解を深め、ボランティアスタッフとしての責任と自覚を持った。

2021 年 7 月 12 日（日）、学習会に参加。事業所「奏音」を訪れ、会員の方々とトランプゲームを行った。初めての対面での参加ではあったが、職員の方から適切な触れ合い方や話の広げ方を学ぶことができ、有意義な時間となった。

2021 年 7 月 25 日（日）、日間賀島研修に参加。日間賀島合宿の主な内容や、そこでの注意点について説明を受けた。

2021 年 8 月 16 日（月）、日間賀島合宿の際、担当につく子どもとの顔合わせのため、「音色」という事業所を訪れた。子どもたちとの触れ合いに精を出した。

2021 年 10 月 10 日（日）、学習会（オンライン）に参加。事前に、クイズと当日使用するスライドの作成を行った。当日は、クイズの進行を行った。

2021 年 11 月 21 日（日）に行われる学習会に向けて、同期と協力し、当日の内容を企画した。

5. 10 月 10 日の学習会について

ZOOM で行われた。21 期が中心となって活動内容を企画・実行した初めての学習会であり印象に残っているため、詳しく記す。当日の活動内容については下記の通りである。

10：00 ～ 10：30　家にあるお気に入りのもの紹介
10：30 ～ 10：40　休憩
10：40 ～ 11：20　クイズ
11：20 ～ 11：30　連絡
11：30 ～ 11：45　スタッフ反省会

家にあるお気に入りのもの紹介は、1 人あたりの紹介時間を長めに取れるようブレイクアウトルームで 2 グループに分けて行った。その名の通り、自分の家にあるお気に入りのものについて 1 人ずつ紹介していくという活動である。発達障害には「こだわりが強い」という特徴があると言われている。この活動では、ほとんどの会員がそのような側面を見せてくれた。

クイズでは、進行役として、緊張しながらも盛り上げ役に徹することができた。クイズは全部で 5 問。問題数に対しクイズに充てられた時間が割と長めだったため、苦労した。

下に添付した ppt ファイルは、学習会のために私が実際に作成したスライドである。

10月10日(日)学習会用クイズ.pptx

岐阜支部の会員は全員大人なので、やや難しめのクイズをピックアップした。また、文字を少なくするなど、全員がクイズに集中できるようなシンプルなスライドを心掛けた。

全体の感想としては、初めての能動的な活動であっただけに、無事に終えることができほっとしたという気持ちが大きい。

6. ボランティア活動を通しての感想

21 期は、今年度の活動をもって修了となる。ほとんどの活動がオンラインでの開催となり、活動数自体も、例年より少なかった。正直言って、やり切ったとか多くのことが学べたとかそういう前向きな感想を抱くことはできなかった。発達障害を抱えている人々への接し方は、ただ口頭で学ぶだけでは身につかない。コロナ禍でのボランティア活動を経験し、人と人との繋がりは、オンライン上だけでは不十分だということを痛感した。このことは、子ども食堂でも言えることだと思う。接触の少ないフードパントリーであっても、食材を提供する人、食材を袋に詰める人、配布する人、そうした場を設ける人の介在がなければこの活動は成り立たない。また、例え危険な状況下にあっても、支援を必要とする人の数は変わらない。コロナ禍におけるボランティアのあり方を見直し、模索する必要があると強く感じた。

次年度の活動提案

1. 提案

私が次年度やりたいことは、以下の 4 つである。

① 子ども食堂における問題点・課題点の明確化
② 解決策の立案
③ 提案
④ 貧困問題の研究

①～③については、後期の初めにも言った通りである。子ども食堂についての先行研究を参考にして、問題点や課題点を洗い出す。その上で、実際に子ども食堂に足を運び、ボランティアをする中で抱いた疑問や感じたことを付け加えていく。客観的な視点に加え、主観的な視点すなわち子ども食堂の参加者の視点にも注目する。以上の取組から得た問題点・疑問点を分析、分類し、報告書を作成する。それを、できることなら提案したい。提案先については未定。④については、後期読んだ『貧困とはなにか』を参考に、貧困問題について深堀していきたいと考えている。

2. 具体的な内容・方法

はじめに、なぜ上記の 4 つの項目に取り組みたいと思ったのかについて述べる。まず、①～③の子ども食堂における問題点・課題点を明確化し、解決策を立案・報告したいと思ったきっかけは、初めて行った子ども食堂（フードパントリー）での光景が印象に残っているからである。子ども食堂の参加記録にも書いたが、普段からよくフードパントリーを利用している人（時間やシステムを把握、理解している人）が、開催時間前から既に列をなし、せっかく時間通りに来た人が物資を受け取れないという出来事があった。明らかな利用者間の差を知った瞬間であった。この光景を目にした時、フードパントリーのシステムに何か問題があるのではないかと思い、ぜひこれを明らかにしたいと強く感じた。また、子ども食堂やフードパントリーといった活動は、オンライン上で開催することが現段階では不可能であり、コロナ禍での活動が低迷してしまっているという点についても、改善の余地があるのではないかと感じた。以上が、私が①～③の活動に取り組みたいと思った理由である。私 1 人で 2 つの課題を見つけられているくらいなので、全員で取り掛かれば、様々な視点からもっと多くの課題が見つかるのではないかと思う。また、我々だけでなく、利用者や関係者から寄せら

れた声も合わせれば、より具体的で確実な問題点が見つかるはずである。それらを元に解決策を模索、提案することで、より機能的な子ども食堂を創造したいと考えている。

次に、④について述べる。なぜ貧困問題なのかというと、どうせ何かしら研究するのであれば、『貧困とはなにか』を読んで得た知見を生かした研究がしたいと思ったからである。また、貧困問題は子ども食堂の目的の１つである「貧困対策」と関連があり、研究しがいがありそうだと思ったからでもある。

以上が、４つの項目に取り組みたいと思った理由である。

では、各項目の具体的な内容・方法について述べる。①の子ども食堂における問題点・課題点の明確化については、なるべく多くの人の意見や考え方、思いを知ることが、特に改善した方がよい点を見つける上で最も重要なのではないかと思う。よって、まずは、ボランティア活動に参加するなかで見つけたものを授業時間内に共有し合い、共通点を見つけ出すというシンプルな方法で絞っていくというやり方が良いのではないかと思う。そしてその上で、参加者や運営側の主観的でより具体的な意見を取り入れるべく、先輩方が作成した感想用紙のようなものを利用するという方法がベストだと考える。②の解決策の立案については、①を実行し、その中で特に多かった問題点・課題点をピックアップする。ピックアップする問題点・課題点が少なければ、その分１つの問題にかけられる時間が多くなるため、できれば３つ以内に抑えたい。解決策については、誰もが納得でき、実行しやすいという条件を設け、議論を進めていく。③の提案については、できなくてもいいと思っているので、割愛する。④は、『貧困とはなにか』に書かれている内容を、子ども食堂の研究を通して確かめるという取り組みである。現段階では、「貧困に陥りやすいと言われている女性や障害者が、子ども食堂を利用している人の中でどの程度の割合を占めているのか」とか、「子ども食堂の地域差と貧困の地域差には共通点があるのか」といった内容について調査したいと考えている。

以上が、私が次年度やりたいと考えている活動である。